

定例教育委員会

- 1 日 時 平成 27 年 8 月 24 日 (月) 午後 5 時 30 分から午後 8 時 00 分まで
- 2 場 所 磐田市役所西庁舎 3 階 特別会議室
- 3 出席者 村松啓至教育長 杉本憲司委員 青島美子委員 田中さゆり委員
秋元富敏委員
- 4 出席職員 教育部長 教育総務課長 学校給食管理室長 学校教育課長 中央図書館長
文化財課長 幼稚園保育園課長 市民活動推進課長 文化振興課長
スポーツ振興室長
- 5 傍聴人 0 人

教育委員会が決定したもの（議決事項）

平成 26 年度磐田市一般会計歳入歳出決算（教育費関係）の認定について

< 教育総務課長 >

事務事業の実施内容について、市政報告書を基に各課から説明させていただきます。文化振興課、市民活動推進課、スポーツ振興室、幼稚園保育園課、教育委員会事務局の順でお願いいたします。なお、質疑につきましては課ごとに行うという形でお願いいたします。

・文化振興課（文化振興課長）

最初に市民文化会館、文化振興センターの施設利用状況につきましては、市民文化会館の人数はほぼ横ばい、文化振興センターは磐田税務署の確定申告に関する取扱い方法を一部見直しして増加傾向となりました。修繕費については総額では 552 万円で、会館における設備機器の緊急修繕が主なものとなっております。

次に、文化芸術振興事業では、市民文化会館やなぎの木会館などのホールを使った自主事業について磐田文化振興会へ補助金を出す形で 21 事業開催し、昨年度は収支、集客ともに増加しました。合計 15,702 名のお客様に来ていただくことができました。

次に、文化芸術活動支援事業は主に文化協会などへの補助金や磐田芸術祭の委託金になります。磐田市文化協会につきましては磐田市音楽芸術祭の舞台や音楽の発表会や生け花展、ジュニアアート展などを実施しております。また、青少年文化芸術活動育成支援事業につきましては高校演劇振興事業、吹奏楽公開クリニック、小中学校への器楽指導者派遣事業などへの委託料、磐田こどもミュージカル育成事業の補助金になっております。最後の展示体験施設費につきましては、香りの博物館と新造形創造館での指定管理事業となっております。特に、新造形創造館におきましては、利用の少なかった金属工房への改修工事を行い、より使い勝手の良い、多くの人たちが集まり、使用しやすい施設へと改修しました。全体を通しまして、各施設については適正な管理運営に努めまして安全安心に利用していただくことができました。各事業につきましては、自主企画

事業の立ち上げなど、子どもたちが参加できる事業、市民との連携による公演などを実施し、多くの集客に努めたところです。

< 質疑・意見 >

市民文化会館の利用者は安定的に増えていますね。また、文化活動事業も充実していると思います。

企画事業については少しずつ見直しをかけながら、改善を図っています。

・市民活動推進課（市民活動推進課長）

最初に、社会教育委員会運営事務につきましては、地域の教育力の向上を目指して、学校・地域・家庭の連携を協議テーマとして、25・26年度の2か年でまとめました。27年3月30日に教育委員会に提言したところです。提言としましては、学校・家庭・地域の連携による地域教育力の向上を目指して、ネットワークづくりやプラットホームづくりの推進が必要であるという内容です。次に、生涯学習推進事業です。平成24年度に策定をしました生涯学習基本方針に基づきまして、学習の支援、学習成果の活用、学習施設の整備充実を進め各種事業を実施いたしました。内容としては、生涯学習情報の提供や啓発、生涯学習指導者の育成講座などを実施しております。

昨年度、新規事業としまして30歳の大同窓会「三十会(MITOE) in 磐田」の開催を支援しました。この企画は平成25年度に市若手職員による政策形成能力研修草莽塾のグループによる提案事業をヒントにしたものです。色々な意味で節目となる30歳の若者のつながりを復活させるイベントとして30歳の有志20名を実行委員会として組織し開催したものです。

次に、人権啓発推進事業につきましては、市民が人権について正しく理解し、差別や偏見のない明るい地域社会を構築するための各種啓発事業を実施しました。なお、本事業につきましては、同和対策事業と関連が大きいということもありまして、27年度から健康福祉部福祉課生活支援グループで所管しています。

また、公民館講座等開催事業についてです。全館で362講座を開催し、延べ14,249人の参加がございました。昨年度は296講座の14,012名の参加がございました。

家庭教育推進事業では、前年度に引き続き家庭の教育力の向上を目指し、家庭教育学級の開催、家庭教育講座、家庭教育講演会を実施しました。

公民館施設整備事業では、南御厨公民館外壁塗装工事、ガラス飛散フィルム設置工事等老朽化した施設の修繕を行っております。

豊岡総合センター事業においては、豊岡農村健康管理センター、生活改善センター、母子センターの解体工事を行いました。あわせて、仮称豊岡総合会館の実施設計を行いました。

青少年活動推進事業のうち、青少年関係団体の支援としましては、子どもの健全育成を目的に活動している子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、しきじ土曜倶楽部等へ補助金を交付するなど活動を支援しております。

青少年宿泊体験事業のキラリ サマーキャンプ2014では、磐田青年会議所が主催する

2泊3日の宿泊体験事業を支援しています。子どもの思いやりの心や自主性の養成に取り組みました。例年、本事業は竜洋海洋公園で行っていましたが、昨年度は豊岡の獅子ヶ鼻公園を会場に実施しております。

また、通学合宿推進事業では、地域の皆様の御協力をいただきまして、公民館等を活用して子どもたちが家庭から離れ、共同生活をしながら、登下校をする事業です。3件の補助をしました。

全体として、生涯学習事業の課題としましては、27年度から公民館やコミュニティセンターを地区の活動支援施設として一元化し、交流センターとしてスタートしたところです。生涯学習事業はそのまま引き続き行形で実施しておりますが、現在、交流センターで行われている各種講座につきましては、趣味的内容や教養的、サークル活動がほとんどです。今後は、人権活動の人材育成や地域リーダーの養成など、地域づくりにつながるような講座の開催を多くしていきたいと考えております。

< 質疑・意見 >

30歳の方々が集まって同窓会を行う事業について説明がありましたが、具体的にどのような内容でしょうか。

市内の中学校区の同窓会を市内全域で行うというイメージです。学校単位の同窓会は行われていると思いますが、磐田市全体を捉えて同年代が集まるというのは、今まで開催したことはありませんし、全国的にもあまり例がないと思っております。

今年の2月28日(土)に磐田グランドホテルを会場に250名が集まりました。各学校対抗のクイズ大会であったり、みんなで記念撮影をしたり、親交を深めたものです。

昨年の開催が第1回目ということですね。

はい。

250名も集まったのですね。

会場のキャパシティの関係もありまして、磐田グランドホテルの2階の大広間が一杯になりました。参加対象者は2,000人近くになります。

せっかくそのような形で進めているという中で、今年度はシフトしていくという理解でよろしいでしょうか。

次の年代にスライドしてまいります。30歳になった方たちを実行委員会形式で集めまして企画からすべて行っていく形を取っておりますので、市は予算を出さずに、自分たちで会費と協賛金で企画を組み立てる仕組みです。社会人になってもなかなかこういった企画を行う機会は少ないので、第1回目の実行委員会の方々がOBとして参加しバックアップ体制を取れる形ができました。

同じ30代、同じ時代を生きる人たちがせっかくご縁をいただいたということで、会が終わっておしまいでなくて、核になるような人が声を掛けあって、事務局とは別の話で独自に動き出す仕掛けをしていくことなどが考えられますが、いかがでしょうか。

事務局として具体的な仕掛けを投げ掛けているのではなくて、みんなで集まったのでその際だからみんなで何かをとったところにつながればと思っています。磐田の若い

人たちのグループでWIN「若者いわたネットワーク」にも御協力をいただいておりますので、いわたゆきまつりなどを協力していただいておりますけれども、そういった活動への刺激にもなればと考えております。

実際にこれを機につながりができるのであれば良いと思います。

通学合宿の3件は具体的にどこになりますか。

池田地区、南御厨地区、磐田西小の3件です。

参加人数についてはいかがでしょうか。

1会場につき30名弱です。詳細な資料や数字はおって御連絡します。

私は県のPTAにいたときに、県教委社会教育課関係の委員会にいて、県からは通学合宿の推進について要請があったのですが、対応する母親たちも大変な面がありました。池田地区では継続的に活動しているので、活動内容や子どもたちや大人たちの感想などが知りたいと思いました。

承知いたしました。本年度も先程御説明した3か所に加え、大立野自治会や田原地区で行っております。

通学合宿もコミュニティ・スクールと同様に地域の方々が子どもたちに関わっている事業ですので、詳細を知りたいと思いました。

次回までに内容を整理していきたいと思います。

・スポーツ振興室（スポーツ振興室長）

はじめに、体育施設管理事業ですが、これは磐田市総合体育館など39施設を5つのくくりで区分し、指定管理者へ施設の管理運営を委託したものです。工事の状況ですが、かぶと塚公園陸上競技場のトラックや走り幅跳びなど競技エリアの舗装路面の改修工事や福田屋内スポーツセンターの下水道接続に関連する工事、アミューズ豊田の屋上防水改修工事などを実施しました。

次に、その他体育施設管理事業ですが、これは豊岡総合センター内の体育館や野球場などの管理と、学校体育施設、33小中学校の体育館やグラウンド等を市民へ開放した事業です。

次に、竜洋体育センター施設整備事業ですが、これは、老朽化した現竜洋体育センターと竜洋老人福祉センターの代替施設として、整備するもので、建設費の高騰から、入札が不調となり一部仕様を見直し、再入札のうえ、工事着手しました。今月、工事が完成し、9月19日に竣工式、10月1日からの供用開始を予定しています。委員の皆様には竣工式への御出席をお願いしたいと考えています。

次に、スポーツ教室等開催事業ですが、体育協会やスポーツ推進委員の協力を得て、スポーツ教室・イベントを実施したもので、ジュビロ磐田メモリアルマラソンなど体育協会が主催する大会には、補助金交付により事業を支援しました。ジュビロ磐田メモリアルマラソンは、平成26年大会で第17回を数え、エントリー数が1万人を超える大会となりました。

次に、ジュビロ磐田J1復帰応援事業ですが、小中学生を対象にホームゲームの6試

合の無料観戦招待やジュビロ選手と市民との交流によるホームタウン意識の高揚、ジュビロ磐田ホームタウン推進協議会への活動支援などにより、市民が一体となってジュビロを応援することによるスポーツのまちづくりを進めました。

次に、ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦事業は、26年度で4回目の開催で、小学生約3,200人が観戦しました。毎年の反省を踏まえ、改善を進め、子どもたちの思い出に残る事業にしていきたいと考えています。

成果と今後の課題ですが、成果については、今、報告しました内容と記載のとおりで、指定管理者、体育協会、スポーツ推進委員、ジュビロなどの関連団体と協力してスポーツの推進を図りました。課題については、一市三町一村の合併により、新磐田市として10年目を迎えたわけですが、旧市町村で所有していた体育施設が、それぞれ老朽化し、修繕や改修工事に係る費用が増加しています。判明している全ての不具合を一度に修繕・改修する予算がありませんので、現在は、緊急度合に応じ、順次、修繕を実施しています。今後は、施設の修繕や改修や再配置について、全体計画を立て、進めていきたいと考えています。なお、平成26年度は、竜洋体育センターと老人福祉センターの代替施設としての新竜洋体育センター建設や、かぶと塚・塔之壇のテニスコートを廃止し、東大久保テニスコートをハードコートから砂入り人工芝コートに変更するとともに5面から8面にするための設計など、施設の再編を進めました。以上で説明を終わります。

< 質疑・意見 >

新竜洋体育センターは、老朽化していた竜洋体育センターと老人福祉センターの代替だと思えるのですが、老人福祉センターを解体するにあたって、老人会との意見交換の機会はありませんでしょうか。

平成25年度からボランティア協議会、老人クラブ等と各3回ずつは意見を交換してまいりました。建物の利用につきましても、先日お話をしたところです。

元あったものをそのままというのは難しいとは思いますが、前の老人福祉センターでは調理室や大きな広間がありました。老人の方々はそういった施設が新竜洋体育センターに移ると思っていたのが、実際は調理室が無くなり畳の部屋も小さくなってしまいました。市としては交流センターに調理室があって、床暖房の設備もあるという認識でしょうが、その点についてのわかりやすい説明があればと思いました。今後、同じような事例はあるとは思いますが、変更点などについて丁寧な説明をお願いできればと思います。

・ 幼稚園保育園課（幼稚園保育園課長）

最初に幼稚園の職員数についてです。平成26年度は22園の幼稚園がございます。平成25年度末に豊岡東幼稚園が閉園をいたしましたので1園の減となっております。職員数は平成25年度と比較して正規職員数は3名増、非正規の嘱託と臨時職員では合計で1名増であり、合計4名増となります。幼稚園預かり保育モデル事業については、平成27年度から全園で実施をしておりますが、昨年度はモデル的な形で平成27年度の実施に向けての検証を、3園（大藤幼稚園・磐田南幼稚園・福田中幼稚園）で取り組みを行

いました。実施にあたりまして、夏休みの暑さ対策としてエアコン設置をいたしました。

次に、幼稚園の学級数と園児数です。平成 25 年度と比較して合計で園児数は 81 名の減となっております。平成 25 年度との比較で 10 名以上の園児数が増となったのは 3 園でした。一方で、10 名以上の園児が減となったのは 5 園ありました。トータルして園児数は 81 名の減となります。続いて、魅力ある園づくりについては、職員の資質の向上、幼・保連携の推進は前年度からの引き続きの取組でございます。また、保・幼・小連携の推進については前年度から取り組んでいるところではありますが、幼稚園から小学校への円滑な接続をするということで、園児と児童の発達や、それぞれの施設での教育・保育内容について理解を深める必要があるということで、平成 26 年度からは磐田北小学校・磐田北幼稚園・磐田北保育園をモデルとして、接続期の教育・保育をどのようにしていくかということで、具体的な実践を進めてきたところです。昨年度の段階での成果としましては、職員、保護者、子どもそれぞれの不安の解消と、小学校に上がるときの期待感の高揚が効果として出てきたと思います。今後の課題としましては、市全体にどのようにして成果を広げていくかということを検討していくことを考えております。

特別支援教育体制の充実については、特別に支援を要する子どもたちや配慮が必要な子どもに対する支援員や巡回カウンセラーの配置などを行いました。支援員については、22 園で 74 名です。特別な支援を要する子どもたちは幼稚園 379 名で、園児数全体の 16% という数字が出ています。巡回カウンセラーについては、これまでは公立幼稚園を回っていましたが、私立幼稚園・保育園も同じような困り感をもっておりますので、カウンセラーの巡回を各園 2 回ずつ新規に行っております。

幼稚園就園奨励費の状況です。こちらは国庫補助金が付いておりますが、平成 26 年度から多子世帯における所得制限の撤廃がありましたので、対象園児が増加しました。その関係で平成 25 年度につきましては市の支出額が 4,300 万円程度でしたけれども、合計で 9,200 万円となり倍以上の金額になりました。国庫補助金額としては 2,237 万 2,000 円となりました。

私立幼稚園支援は市単独で行っている事業です。運営費補助金は幼稚園を運営する学校法人に対しての補助、就園補助金については私立幼稚園に通園する園児の保護者に対する補助になっています。

今後の成果と課題についてです。主な課題としては、幼稚園の園児は減少している現状でありますけれども、平成 27 年度の募集をした際には、定員を上回る園も出てきたところが現状です。また、施設が老朽化しておりますので、保育園も含めた中で、市の幼稚園保育園再編計画を基にどのようにしていくかということについて、計画を立てていきたいと思っております。また、今年度からこども園ができたということ、預かり保育を全園で実施していくということで、教育・保育時間が拡大してきております。その中で保育の質が低下してはいけませんので、保育の質をさらに向上していくためにどのようにしていくかについて課題があります。最後に幼稚園・保育園同じような課題ですけれども、子どもたちのためのより良い幼児教育・保育の推進をしていくために、職員の資質向上というのは引き続きしていくことが求められていると思いますので、何のため

に日々教育・保育活動を行っているのかという点を押さえつつ、研修も目的意識をもった中で、充実を図っていきたいと考えております。

< 質疑・意見 >

幼稚園の学級数、園児数を見ると、例えば、大藤幼稚園の園児数は 29 名で 2 学級、豊田東幼稚園は 29 名で 1 学級、これはどのような違いによるものなのでしょうか。

1 クラスは国の基準では 35 人以下で設定をするように決められています。磐田市もそれに基づいて募集定員を定めています。その中で、園の部屋数がどれだけあるのかということで、例えば、大藤幼稚園であれば、園児数の 3 歳児 29 名は、4 歳児・5 歳児を除いてもあと 2 部屋あるので、29 名を 2 クラスに割ることができたということです。

また、豊田東幼稚園は部屋数の関係から 1 クラスを 29 名としたのですが、国の基準の 35 人以下で編制をしたということです。

施設面での相違ということですね。

そのとおりです。

・教育総務課（教育総務課長）

成果と今後の課題としては、教育委員会評価の中でも述べましたように、委員から活発な意見が出されていること、研修としてはコミュニティ・スクール先進地の視察において教育施策の知識を深めることができたこと、新教育委員会制度における総合教育会議にて、今後の教育施策の方向性を市長と共有する中で、一層の連携をすることを課題として挙げております。次に、教育施設・整備の整備状況では、校庭の芝生化事業の状況として、平成 15 年度からモデル事業として開始しており、平成 26 年度については竜洋北小学校の新規実施、富士見小学校・豊田東小の面積拡張という中で、小学校は 23 校中 16 校、中学校は 10 校中 4 校の合計 20 校で整備されております。平成 27 年度においては豊岡東小学校が統合となりましたので、整備校は 19 校となります。学校の施設管理事業、教育振興事業は学校配当予算です。学校配当予算は 30 万円未満を校長決裁で執行しているところでございます。施設管理事業は施設管理に係る消耗品等、教育振興事業は授業等で使用する消耗品・備品となっております。金額の大きいものについては事務局分として別に執行しております。全体では前年度比で約 2,618 万円(10.7%)の増額でした。

次の教育振興費・教材等整備の状況についてです。本内容は事務局で執行する事業で、小中学校の理科・算数・数学の教材整備を行ったものです。学校要望に基づき整備しておりまして、平成 26 年度については小学校の理科・算数で合計 250 万円、中学校の理科・数学の合計で 188 万 8,223 円を執行しております。前年度比では、平成 25 年度は国の緊急経済対策により整備をしましたので、決算額としては大きな減額となっております。購入教材については顕微鏡等の高額備品、百葉箱、人体解剖模型、空気の流れ実験器などを各学校の要望に基づき整備しております。

次に、営繕工事の状況につきましては、26 年度は小学校地震対策事業として、田原小学校・富士見小学校・福田小学校・竜洋東小学校の耐震補強工事、大藤小学校・長野小

学校のガラス飛散防止フィルム設置工事、豊岡北小学校の防災機能強化工事を実施しております。また、中学校地震対策事業としては神明中学校・磐田第一中学校のガラス飛散防止フィルム設置工事を実施しております。また、防災機能強化事業として福田中学校・豊岡中学校の外壁等塗装工事、竜洋中学校・豊田南中学校・神明中学校の実施設計を行っております。耐震化については市内全小中学校で完了となりました。今後は外壁落下防止など防災機能強化事業に重点を置いていきます。学校施設ミストシャワー設置モデル事業では、平成 26 年度はモデルとして幼稚園 2 園、小学校 2 校、中学校 1 校実施し、清涼感等子どもたちにも好評でありまして、本年度は全校・園での実施をしました。

次の小中一貫校等整備検討事業については、委託成果品を基に作成した構想を御審議いただいたということで、学府一体校構想として公表させていただいたところでございます。今後、学校施設だけではなく、設備も含めた更新計画を一体校を含めて策定していくということで取り組んでいるところです。

教育振興事業については、就学援助費、特別支援教育就学奨励費になります。就学援助のうち、要保護・準要保護の人数について報告させていただきます。要保護については、小学校 21 名で前年度より 5 名減、中学校は 16 名で前年度と同数です。準要保護は小学校 412 名で 34 名増、中学校 258 名で 8 名増です。26 年度末で要保護・準要保護の児童・生徒数の割合は 5.1%で前年比 0.3%増になりました。特別支援教育就学奨励費については小学校 213 名で 17 名増、中学校は 102 名で 20 名増になります。課題としては、就学援助の認定基準につきまして、ここ 3 年で生活保護基準が段階的に見直されています。これまでの磐田市の場合、生活保護基準は 1.3 という数字で準要保護の認定基準を設けておりますが、その生活保護基準自体が段階的に変わっておりますので、今後、影響が出ない形でどのような認定基準を設けるのか本年度、来年度で検討してまいります。

青少年育成事業については、放課後子供教室は学校教育課から説明があると思いますが、放課後児童クラブについて御説明をいたします。放課後児童クラブの運営事業ということで、23 小学校、32 クラブを設置し、年間延べ利用人数は 25 年度と比較して 600 名多い 11,048 名でした。国の子ども・子育て支援関連法の施行に伴いまして、放課後児童クラブの利用対象学年が拡大しておりますので、施設面や支援員の確保という中では、設置数も増えている訳ですが、事業推進を図ってまいりたいと考えております。

< 質疑・意見 >

なし

・学校給食管理室（学校給食管理室長）

まず、平成 26 年度における学校給食の喫食数でございますが、3 箇所（給食センター）で 155 万 5,621 食、15 箇所の単独調理場で 145 万 9,011 食の、合わせて 301 万 4,632 食となっており、25 年度に比べ、3 万 1,300 食、率にして 1.03%の減となっておりますが、この主な理由は、対象人数が 25 年度と比較して 58 人の減となっていることに加え、台風による 3 回の給食中止や、インフルエンザに伴う学級閉鎖等によるものです。

次に、給食施設費では、豊田学校給食センター荷受室プラットホームの手洗い器設置

工事を実施しました。学校給食事務では、主なものとして、竜洋と豊田地区、及び磐田北小において給食用の食器を購入したほか、引き続き、従事者の保菌検査や食材の放射性物質検査を実施いたしました。次に、食事内容についてですが、一人当たりの栄養摂取量は文部科学省が定めた「学校給食摂取基準」に基づき、概ね充足することができました。また、学校給食における地産地消に継続して取り組み、平成 26 年度の地産地消率は 18.1%と、25 年度と比較して 3.5%の増となっており、これまでで最も高い率となっています。

最後に、成果と今後の課題についてですが、成果については、26 年度も引き続き、安全で安心な給食の提供ができたこと、また、課題については、施設設備の老朽化に対する、計画的な修繕や取替え等の実施であると考えています。

< 質疑・意見 >

なし

・学校教育課（学校教育課長）

青少年育成事業のうち放課後子供教室です。福田・竜洋・豊田の 3 地区 7 小学校で、放課後も安全・安心な活動拠点・場所づくりのため放課後子供教室を設けております。

次に、26 年度の小中学校の児童・生徒数を掲載しております。小学校 9,429 名、中学校 4,560 名の計 13,989 名で、平成 25 年度と比較して小学校では 4 学級増の 70 名増、中学校では 1 学級増の 37 名減となっております。

個に対応する教育では、5 小学校 7 名の市費負担教員を配置しました。今後も質の高い教育の確保に努めていきたいと考えております。特色ある学校づくりについては、理科の実験準備などを支援する理科支援員 6 名、図書館の整備等のための図書館支援員 4 名を配置し、教育活動の充実に努めてまいりました。

小中一貫教育については、平成 25 年度に 2 学府、26 年度に 3 学府の計 5 学府が本格実施となりました。新たに福田・豊田の 2 学府が試行となりました。小中一貫教育の推進のために 11 名の市費負担教員を配置しました。学府ごとに主体的な取組が行われて、今後、学校と地域との連携推進が一つの課題となっております。

次に、地域に開かれ信頼される学校づくりについては、18 校をコミュニティ・スクールとして指定しました。コミュニティ・スクールフォーラムを開催した訳ですが、各学校に目を向けてみますと取組に若干の差があるということで、今後、学校運営協議会の委員の研修等の充実を図っていく必要があると感じております。

情報化に対応した教育では、電子黒板活用の促進を図ってまいりました。また、各学校にあったサーバを一元化しセンターサーバ化を進めたことによって、安全性の向上と経費削減を進めることができました。課題としては、各学校のセキュリティレベルの向上を図っていくことが挙げられます。

また、国際化に対応した教育については、外国語指導助手（ALT）の配置と外国人児童生徒への支援を推進しました。磐田版英語教育モデルカリキュラムを中心に ALT と教師の協働による授業を行うことができ、児童の英語への興味関心も高まってまいりました。

外国人児童生徒に目を向けて見ますと、編入者が非常に増加傾向にあり、その中に特別に支援を要する子どもたちも増えてきているということで、指導内容が複雑多岐にわたっている現状です。

次に、教育課題等への対応についてですが、特別に支援を要する児童・生徒のために83名の補助員を配置しております。教員が個に応じた指導を図っていくための研修も進めてまいりました。いじめや不登校に対応する支援・指導については、心の教室相談員をはじめとして教育支援センターの設置、ネットパトロール、臨床心理士等の緊急派遣等を行ってまいりました。不登校をはじめ特別に支援を要する子どもたちについて、様々な要因が多様に絡み合っておりますので、一人ひとりの子ども理解に力を入れていく必要があると思っております。

< 質疑・意見 >

なし

・中央図書館（中央図書館長）

平成26年度の図書館運営につきましては、施設設備の安全な維持管理を最優先とし、必要な工事を実施しました。平成26年度に豊田図書館の吊り天井落下防止補強工事を終了し、平成24年度から順次実施してきました市内図書館の地震対策工事は全て完了しました。

豊田図書館の工事による休館の影響もあり、利用者数は前年度よりは多少、減少しています。入館者数は5館合計で599,461人、貸出利用者数は338,571人、資料の貸出点数は1,306,374点です。1日平均に直しますと、入館者数は中央図書館で平均878人、5館平均では417人、貸し出し点数は中央図書館で平均2,199点、5館平均では910点と、市民の図書館利用は活発な状況にあります。

次に、サービスの利用状況につきましては、所蔵予約、リクエストを合わせて11万5,723件でした。この内、WEB予約が7万7,797件であり増加傾向にあります。

また、特に中央図書館でレファレンス件数が大幅に増加しており、これは、レファレンス業務の周知に努めたことや、レファレンスカウンターを専用に設けていることから、固定の利用者や市内外からの調査依頼が増えていること、また、平成25年度からの「解説シート」の作成により、調べものへの関心度が増したことも要因と考えられます。

次に児童サービスですが、「磐田市子ども読書活動推進計画」に基づき、「お話会」や「ブックスタート」、「茶の間ひととき読書運動」等に各館で力をいれて子どもの読書推進を図りました。

また、視覚障害者の方へのサービスの提供、視聴覚ライブラリーの活用、雑誌スポンサー制度の推進に継続して取り組みました。

平成26年度の新規事業としては、地域資料の電子書籍化が挙げられます。平成23年度から電子書籍についての調査・研究を重ねてきましたが、平成26年度から図書館や文化財課が所蔵する地域資料のデジタル化作業に着手しました。そして、今年度平成27年度、図書館のHPの枠を使って、「いわたデジタルアーカイブ」としてWEB上でその一

部を公開することができました。今後も、地域資料のデジタル化事業は継続して推進していく計画です。

最後になりますが、平成 26 年度には磐田市立図書館としては初めて図書館評価を実施しました。図書館協議会で磐田市立図書館の基本方針・運営方針に沿った事業展開やサービス提供がなされているかを、利用者アンケートや市政モニターアンケートの結果を踏まえ、職員による自己評価と図書館協議会委員の方々による外部評価により行い、図書館の HP 上でその結果を公表しました。今後、図書館評価の結果を踏まえ、更なる図書館サービスの充実を図っていきたいと考えています。

< 質疑・意見 >

なし

・文化財課（文化財課長）

本市の文化財の全体について御説明いたします。有形・無形を含めて国指定は 8 件、県指定は 16 件、市指定は 130 件のあわせて 154 件となっております。また、国の登録有形文化財の 17 件を含めると全体では 171 件となり、大変多くの文化財を管理している状況です。市内には調査の及ばない多くの遺跡をはじめ、書画や美術品など多くの文化財が眠っていることが推測され、ますます増えていくと認識しております。

文化財の保存整備と普及啓発については、遠江国分寺跡整備事業をはじめとして、県・市指定文化財に対する補助金の交付、各種企画展の開催、歴史訪問教室、文化財だよりの発行などに取り組みました。成果では新たに国の登録有形文化財が 2 件登録されたことや遠江国分寺跡の調査から僧房の規模が判明したこと、掛塚地区の津倉家住宅の寄付を受けたことなど大変充実した内容となりました。課題では、文化財活用の取組の検討、津倉家住宅の活用などがあり、今後とも文化財の普及啓発の向上に向けた取組を進めていきます。

地域史編さん・歴史文書館についてです。歴史文書館は県内でも類を見ない施設として、平成 20 年 4 月に開館され、公文書の整理業務をはじめとして、地域史編さん事業や地域資料の収集・整理業務に取り組んでまいりました。なかでも昨年度は福田町史編さんにおいて今年度の刊行に向けた各種の調査等編集業務に取り組んだほか、調査報告会・歴史講座の開催など関連事業にも積極的に取り組んでまいりました。また、歴史文書館施設管理事業では、公文書や地域資料の受け入れと選別作業に取り組んだほか、企画展の開催に加え、歴史学習会や古文書解説講座などを行うなど、地域資料の積極的な活用と公表に取り組んでまいりました。成果としましては、福田町史においては、刊行に向けた執筆作業が計画どおり行われたことや、歴史文書館管理事業では旧市町村公文書の移管が進んだほか、地域資料における収蔵資料の充実が図られたことを挙げています。一方で課題としては、文書の収蔵スペースの問題を取り上げております。

次に、埋蔵文化財調査についてです。埋蔵文化財調査は大きく分けて国庫補助事業と市単独事業、受託事業の 3 つに区分されます。国庫補助事業では個人住宅建設や砂利採取事業などに係る調査を 9 件、市単独事業では公共事業に関わるものなど 2 件、受託事

業では鎌田第一土地区画整理事業に係る調査が2件の計13箇所の発掘調査を実施したほか、既に発掘調査済の発掘調査報告書を刊行するなど遺跡調査の未完了の解消に取り組みました。また、重要文化財に指定されている明ヶ島古墳群から出土した土製品の保存修理を専門業者に委託し取り組みました。課題としては、民間開発や公共事業による開発計画に対して、開発者との綿密な協議の上での計画的な事業執行に取り組むことの重要性を挙げております。

最後に施設・史跡の管理運営についてです。文化財課では埋蔵文化財センターをはじめ旧見付学校など5つの施設の管理運営を行っています。各施設の入館者状況は、記載のとおりですけれども、旧見付学校や旧赤松家記念館など有人施設については5%程度の伸びがありましたが、民具や民俗資料館など無人施設については大幅な減少となりました。また、史跡管理については地元自治会や業者委託などによる除草作業を定期的に行うなど環境整備を進めてまいりました。課題としては特に施設管理においては、全施設とも老朽化が顕著で修繕・改修費に多額の費用がかかることが予想されることや、民具・民俗資料の新たな収蔵先の確保の検討などが挙げられます。総括として昨年度の文化財保護に関する事業は概ね計画どおりでした。予算額1億8,100万円に対して支出額は1億5,700万円で執行率86.3%でございました。

< 質疑・意見 >

なし

< 議案の承認 >

一同同意

審議の結果、本議案は承認された。

平成27年度磐田市一般会計補正予算（教育費関係）の要求について

< 教育総務課長 >

所管ごとに歳入・歳出の順番で説明をいたしますので、よろしく申し上げます。

【歳入】

・文化振興課（文化振興課長）

17款1項1目文化振興費寄付金として100万円を計上し、18款2項1目文化振興基金繰入金に55万円を計上しています。歳出では2款7項3目文化振興費青少年文化芸術活動育成支援事業に155万円を計上するものです。その内、歳入については、4月2日から5日にかけて葛城ゴルフ倶楽部で行われましたヤマハレディースオープン葛城開催に伴いまして地元自治体の後援に対してヤマハ及びヤマハ発動機から寄付金を100万円いただきました。あわせて、文化振興基金の一部を取り崩しまして子どもバンドの育成・支援に充てていくものです。

・幼稚園保育園課（幼稚園保育園課長）

20款5項3目の雑入です。福田こども園の整備に係る交付金が本来平成26年度会計

において収入されるべきものでありましたが、県の事務処理の誤りによりまして、収入未済となりました。このことによる平成 27 年度の精算補正となります。

【歳出】

・文化振興課（文化振興課長）

歳出のうち、80 万円の用途についてです。磐田こどもミュージカルは団設立から 20 年以上経過しておりますが、制服は団員の使い回しで使用しておりました。今回、寄付金を活用して、新たな制服を製作し新調します。また、寄付金の一部と基金取崩しの 75 万円については市内で活動している豊岡 Jr.マーチングバンドで使用する物品購入に充てていく予定です。豊岡 Jr.マーチングバンドは市内全域に団員募集をしてきた結果、子どもたちの数もかなり増加しております。指導者の熱意と団員の頑張りによって、確実に力を付けてきているということで、今回全国大会をめざして努力している団員たちを応援するため必要としている楽器を購入し、贈呈していきたいと考えております。

・教育総務課（教育総務課長）

10 款 2 項 1 目学校管理費小学校施設整備事業は、平成 28 年度新入学児童数の見込みから教室数の増加ということで、富士見小学校・豊田東小学校での普通教室が不足します。両校とも空き教室がないという状況から、特別教室等を改修して対応するための工事費の計上となっております。富士見小学校では来年新 1 年生が 4 学級の見込みであり、卒業する現 6 年生が 3 学級のために全体で 1 学級の増となります。また、現 4 年生が 105 名で 3 学級ですが、1 名でも転入等がある場合には来年度 4 学級になる可能性があります。また、本年度外国からの転入児童の多くは日本語が話せないということから初期支援教室も必要になってまいります。富士見小学校ではこれらの要因に対応できる施設的な余裕がありませんので、校舎東側の図工室・学習室として使用しているプレハブを普通教室として改修するための工事費を計上するものです。富士見小学校では 3～5 年後には人数が減少する予測がありますので、見通しをもった中で、既存施設を活用していくことで対応をしていきたいと考えております。

また、豊田東小学校については、来年度新 1 年生が 3 学級の見込みです。現 6 年生は 2 学級ということで、1 学級分の普通教室が不足ということになります。富士見小と同様に施設的な余裕はない状況です。現在の特別教室であるパソコン室が少し広めの部屋になっているため、この部屋を分割して利用するための改修工事費を計上しております。新 1 年生については、児童の動線を考えたときに、できれば 3 学級が並んでいるという状況が理想です。そのような観点から、現在、1 年生に利用しようとする部屋が放課後児童クラブ室となっておりますので、学校側と協議をして、クラブ室を普通教室に戻して、クラブ室をパソコン室を分割した教室に移設することになり、そのための工事費を計上しています。

・学校教育課（学校教育課長）

10 款 3 項 2 目中学校コンピュータ教育推進事業です。これは日東工業から寄付をいただきました 300 万円を各中学校に 1 台プロジェクタ型の電子黒板を配置させていただくための経費として補正計上するものです。従来の電子黒板は 1 台おおよそ 60 万円であり、持ち運びが大変不便であるという状況がありました。新たにプロジェクタ型の電子黒板という軽量で持ち運びも便利で、機能もほぼ電子黒板と同様なものが出てきました。国は各学級 1 台配備という目標を掲げている訳ですが、現実には難しいということで、使用頻度の高い理科室等に備え付けるような形で設置していきたいと考えております。

・幼稚園保育園課（幼稚園保育園課長）

10 款 4 項 1 目公立幼稚園運営事務です。これは今年度開園しました福田こども園のバス運行業務の委託料を平成 27 年度当初予算で計上しましたが、昨年度平成 26 年度の 2 月補正で国の緊急経済対策に伴う「地域住民生活等緊急支援のための交付金事業」を活用して前倒しで対応した結果、当初予算で計上したものと重複計上という形になりましたので、当初予算計上した平成 27 年度分を減額するものです。

< 質疑・意見 >

なし

< 議案の承認 >

一同同意

審議の結果、本議案は承認された。

磐田市歴史文書館運営審議会委員の委嘱について

< 文化財課長 >

本審議会委員は磐田市歴史文書館運営審議会規則第 3 条の規定によりまして、教育委員会が委嘱することになっておりますが、その委員の任期が 8 月 31 日をもって満了となることから、新たに委嘱するものです。なお、委員の任期は平成 29 年 8 月 31 日までの 2 年間となります。また、今回の委嘱では、磐田市男女共同参画推進条例の基本理念に配慮し、女性委員を登用することとしました。

< 質疑・意見 >

なし

< 議案の承認 >

一同同意

審議の結果、本議案は承認された。

各課から報告したもの

(1) 教育総務課

平成 27 年 7 月 28 日付けで文部科学省より「新教育委員会制度への移行に関する調査」の結果について通知がありましたので、内容について御報告いたします。本調査は、新教育委員会制度における総合教育会議の開催状況、大綱の策定状況などに関して、都道

府県、市町村を対象とした全国調査です。調査結果の主な部分について御報告します。

最初に、総合教育会議の開催では、開催予定が未定であると回答したのは都道府県・政令指定都市の3自治体、全体の5.5%、市町村では387自治体、全体の22.5%という結果が示されております。また、総合教育会議の事務局については、市町村では首長部局が担当したのは全体の52.9%という結果であり、本市と同様に首長部局が担当している市町村が過半数を超えるという内容でした。

次に、総合教育会議において話し合われた内容についてです。第1回目の会議では大半が大綱の策定に関する協議、総合教育会議の運営に関し必要な事項を協議していることがわかります。また、それ以外の重点的に講ずべき施策についての協議・調整事項としては、最も多いのが学力向上、次いで学校施設整備の順となっています。

次に、大綱の策定については、策定状況のとおり、市町村の48.1%が未着手でした。また、策定方法にあるとおり、策定済、策定中のうち、大綱を既存の計画等をもって充てたのが全体の52.2%であり、本市と同様に新規に策定したのが47.8%という結果でした。以上の結果より大綱の策定の方法についてはおおよそ二分されている状況にあります。

本市においては既に総合教育会議を4回開催し、大綱も策定されたことから、今後は特に重点的に講ずべき施策を協議題として、首長との話合いの場として総合教育会議を活用し、地域の教育課題の今後のあるべき姿について市長との共有化を図ってまいりたいと考えております。

実施済事業「学校事務員研修会」について御報告させていただきます。研修内容としては、財務事務、就学援助費、特別支援就学奨励費、備品の棚卸・登録などに関して事務執行上の注意点について事務局から説明をいたしました。また、学校徴収金についてはグループ討議を行い、各学校の現状と問題点について話合いをもちました。学校徴収金の取扱いについては書式等も含め不便さを感じている事務職員が多いという御意見もいただいておりますので、今後はそういった課題に取り組んでいきたいと考えております。

次に、予定事業ですが、「磐田市PTA連絡協議会研修会」です。9月5日(土)午後1時からなぎの木会館にて開催します。全体会の後、教育講演会としてテレビでもお馴染みの金田一秀穂先生をお招きして「ことばの力」と題してお話を頂く予定です。また、実践発表は福田小、磐田西小、竜洋東小、城山中、豊田南中の5校が行います。それぞれ特色あるPTA活動の報告から今後のあり方についてこの研修を通して深めていければと思います。

< 質疑・意見 >

なし

(2) 学校給食管理室

それでは、学校給食管理室の実施済主要事業として、「平成27年度第1回学校給食関係職員全体研修会」について報告させていただきます。この件につきましては、7月の定例教育委員会において「予定事業」として説明をさせていただきましたが、8月4日

の午後2時から、アミューズ豊田のゆやホールにおいて、今年度第1回目となる「学校給食関係職員全体研修会」を開催いたしました。

この研修会は、学校給食における職員の衛生意識の高揚や調理に関する知識の向上を図ることを目的に、毎年8月と3月の年2回開催しているもので、各給食センター及び単独調理場に勤務する全ての栄養教諭や学校栄養職員、栄養士、調理職員、給食調理等委託業者などのほか、用務員や運搬員、配膳員、配送委託業者等を対象に開催し、当日は219名が参加をいたしました。

研修会は、まず、静岡県中部保健所の食品衛生監視専門班員により、「学校給食の衛生管理について」と題して講演をいただいたほか、磐田南小学校の栄養教諭に「最近のアレルギー事情」についてお話をいただきました。

なお、8月17日から「ゆるキャラグランプリ」の投票が始まることから、当日は受付において全参加者に投票を呼び掛けるチラシ等を配布したほか、研修会の最後には「しっぺい」自らが登場して投票の願いをし、会場が大いに盛り上がりました。また、その際には、隣の豊田図書館で行われた、中学生の東海大会と全国大会への出場激励会に出席していた教育長に会場へ来ていただき、「しっぺい」の同伴と挨拶をしていただきました。

< 質疑・意見 >

なし

(3) 学校教育課

重点事項の「ふるさと礎プラン」ですが、本市が誇る若手教員育成プランの一環として夏に研修会を実施しております。教育長の講話、ベテラン教員による小学校国語の授業、生徒指導のベテラン教員による講話を行った後グループ協議を行いました。アンケートでは大変好評な御意見をいただきました。次に予定事業では学力向上委員会を9月28日に予定しております。明日、学力・学習状況調査の結果が市教育委員会に送られてくる予定です。後日、結果を各学校に送付しまして、前回の定例教育委員会で御説明をしましたとおり、各学校で公表・伝達の流れで進めていきたいと考えております。

< 質疑・意見 >

全国学力・学習状況調査についてですが、質問紙調査において、児童・生徒などの自己肯定感や自尊感情等のレベルなどはどのような状況か把握されていますでしょうか。

教科に関する調査とあわせて質問紙の結果についても明日、県から連絡がある予定ですので、現在のところ把握しておりません。

(4) 中央図書館

休館日の変更についてお願いします。はじめに、竜洋図書館と豊岡図書館の9月の休館日の変更についてお願いします。磐田市立図書館条例の規定では、竜洋図書館と豊岡図書館の図書整理日の休館日は、毎月第4水曜日となっていますが、今年度の9月の第4水曜日は祝日であるため第3週の水曜日を図書整理日として休館とします。また、福

田図書館の図書整理日は規程では第4週の木曜日ですが、第4週とすると4日連続休館となってしまうことから、第4週の木曜日は開館し、第3週の木曜日を図書整理日として休館日とするものです。また、福田図書館の10月11日の日曜日は地元の祭典により、休館して図書整理日とし、10月22日の本来の図書整理日は開館日とするものです。

次に月例報告をさせていただきます。まず、実施済事業の内、夏休み子ども図書館クラブですが、記載のとおり市内の小学4年生から6年生の延べ30人が図書館業務を1日体験学習しました。本の装備作業の体験や普段は見られない閉架書庫などの見学等、参加した子どもたちは大変熱心に学習していました。こういった体験を通して、子どもたちが、図書館の利用者、協力者として育ってほしいと思います。

次に、予定事業ですが、古典文学講座として「万葉集の名歌を楽しむ」連続5回の講座を9月5日から開催します。講師は中央図書館で活動している磐田万葉学習サークルの代表で万葉学会「美夫久志会(みふくしかい)」の会員の三上達郎先生にお願いします。

次に、9月19日土曜日に中央図書館において「法律セミナー」を実施します。2部構成の「法律セミナー」は昨年度に続いて2回目ですが、今回は第1部で「遺産相続」をテーマに弁護士の毛涯梨恵先生にお話をいただきます。第2部では「データベースを使った身近な法律検索 図書館で使えるデータベース」として「法情報総合データベース」の活用方法についての説明を、第一法規の岡直人さんからしていただく予定です。昨年度、中央図書館に導入した「法情報総合データベース」を多くの市民に知ってもらい、活用していただく機会としたいと思います。以上です。

< 質疑・意見 >

なし

(5) 文化財課

報告事項の磐田市国分寺跡整備委員会委員の委嘱について御報告いたします。本委嘱は磐田市国分寺跡整備委員会設置要綱に基づく委員で教育委員会が委嘱することになっております。委員の任期が7月31日をもって満了したことから、新たに委嘱したものです。今回の委嘱では磐田市議会議員をはじめとして関係組織の改選があったことから、3名が新たな委員となりました。委員の任期は平成29年7月31日までの2年間です。

続いて月例報告です。初めに「旧見付学校むかしの授業体験」についてですけれども、本事業は主に小学生を対象に夏休みに実施しておりますが、今年度は旧見付学校落成140周年を記念し、落成日である8月7日にあわせて実施いたしました。参加者は市内外の小学生40名の参加をしていただき、緋の着物に着替えて当時の授業の体験をしていただきました。このむかしの授業体験は今年で23回目となりまして、見付学校での定着したイベントとなっております。

次に、文化財課主催による夏の企画展記念講演会についてですけれども、現在も中央図書館で開催中であり「大磐田展古墳からメッセージ」の関連事業として開催したもので、今年は邪馬台国研究の第一人者であります古代瀬波(にわ)の里・文化遺産ネットワークの赤塚次郎先生をお招きして「邪馬台国の時代と遠江国分寺」と題して市内

に所在する古墳と邪馬台国との関わりについて御講演をいただきました。参加者は 130 名の満席で大盛況でした。

次に、予定事業ですが、最初に「東海道シンポジウム見付宿大会」については、本事業は NPO 法人歴史の道東海道宿駅会議見付実行委員会が主催するものですが、文化財課も実行委員会に参加し学習会や講演会の講師を務めるなど担当しております。9 月 5・6 日にワークピア磐田や磐田グランドホテルにおいて徳川家康をテーマとしたシンポジウムや展示会、講演会、市内散策など多彩な企画が予定されています。

次に、「戦争の記憶をたずねるバスの旅」については、歴史文書館が主催する事業で、戦後 70 年の節目の年に見付や中泉地区の空襲被災地などをめぐり、あらためて平和の尊さを考えていただく機会とするものです。9 月 26 日（土）に参加費無料、定員 25 名で行われ、見付では空襲体験者の方のお話もお伺いする予定です。

< 質疑・意見 >

東海道シンポジウム見付宿大会についてですが、この大会は毎年どこかの宿場で開催しているものですが、今年は磐田市が合併 10 周年ということで誘致したものです。5 日午後は徳川家康をテーマとした講演会がありますので、是非いらしていただければと思います。